



奇跡とは なんでしょう？

牧師 棚谷直巳

ステージ4の癌になって1年が経ちました。最初は「もう長くはないかも」と覚悟も決めました。その後、つれ合いの李清美さんと、西小倉めぐみ教会の皆さん、南山城伝道協議会の牧師さんの協力もいただいて抗癌剤治療をし、それから大腸・小腸・網膜・腹膜・腹筋・大動脈のリンパ節、それぞれの一部を切除する手術をしました。手術から4時間経ったころ、ベッドに看護師さんが現れて「立ってみなさい」と言いました。こうした時に立ちなさいと言われれば、クリスチャンはマルコ2章11節のイエス様の言葉「起き上がり、床を担いで家に帰りなさい」を思い出すものとおもいます。私もその時に、看護師さんの「立ってみなさい」がイエス様の言葉であったように感じたのです。私は立ち上がって約30mほど歩き、翌日の朝には病棟を一周できるほどに回復しました。医師も「これほど早く回復するとは。私たちも驚いています」とおっしゃり、それを教会の信徒さん達にメールで知らせると「奇跡が起こった」と言いました。約1年間続いた治療も終わり、今は3ヶ月に1度の定期検診をして経過観察して

います。5年間何も見つからなければ、「寛解」になるのだと聞きました。

こうして癌の治療をしている間に、コロナ禍が始まりました。でも、西小倉めぐみ教会は、ほとんどが障害や難病のある人、またひきこもりの若者とその家族で構成されているため、心の拠り所としての教会をそう簡単に閉めるわけにはいかない事情がありました。そこで教会員それぞれの創意工夫の中で、感染予防対策をしつつも「できるだけいつもの教会を守る」よう話し合いました。この社会情勢のなかで「独りぼっちである」と孤立してゆく人が無いよう、ずっと家にいる人や入院中の人には、みんなで書いたお見舞いカードやマスク/消毒液を届ける等をしていました。小さな働きしかしていませんが、その積み重ねによって、西小倉めぐみ教会はこのコロナ禍のなかで結束することが出来てきたと感じます。私たちが弱いとき、困難の中にあるとき、病の時に、その傍らにいてくださったイエス・キリストに感謝いたします。そしてそれは確かに、奇跡でした。

ひるがえってイエス様は、奇跡の業を通して、社会での、人と人との信頼関係の築き直しをされていたのだと想うのです。その奇跡の中で、イエス様は「あなたは神様から何を問われましたか？」と問いかけ、そして、「神様の変わらない信頼に、あなたはどうか応えて生きてゆきますか？」と、私達をいつも導いてくださっていることをおもいます。

もとより財政的困難を抱えている私たちですが、西小倉めぐみ教会は近く教会1階をバリアフリー化する計画を立てています。教会が、さらに風通しの良い、誰からも愛される安息の場となってゆけるように、それぞれのタラントを生かして、これからも祈ってまいります。感謝です。



西小倉めぐみ教会の日常的な取り組み

<ひきこもりがちな若者が安心してすごせる居場所 フリースペース「おやすみ」>



学習会の様子

ひきこもりがちで社会や学校になじみにくい、生きづらい、様々な困難を抱えた方がおられます。フリースペース「おやすみ」は、外出したくても休憩できる場所が少ないとの声に応えた、気軽に訪れゆっくり休息できる居場所です。

就労や通学といった決められた目的を持たず、可能な範囲で自由に過ごせます。本を読む、ゲームをする、スタッフと相談事を話す、お茶を飲む、卓球をする、ピアノを弾く、ぼーっとする、眠る、いろいろなことをして過ごしておられます。ここでは対応の難しいつらさや困難がある場合、それらを和らげるために対応可能な他団体の紹介も行います。少しでも、家から出かけることで気分転換ができればと願って運営しています。

(時)毎週月曜日(祝日、年末年始を含む)午後2時～5時

(場所)西小倉めぐみ研修センター(教会の建物です)

(対象)概ね40歳までの方 (参加費)原則無料

(ホームページ) oyasumi.info

2020年度は、9月21日には社会福祉士による学習会を、10月5日、11月16日にはパソコン教室を催しました。毎月第2月曜日には、臨床心理士による「こころの相談」も実施しています。

本年は緊急事態宣言時は休みとしその後、新型コロナ対策を実施し開催しています。

＜代表の柴垣孔明さんから＞

2020年4月から代表を務めさせていただいています。「おやすみ」には、様々なつらさしんどさを抱えた若者たちが来られます。彼ら彼女らのつらさしんどさは、決して型にはめられるものではありません。「おやすみ」は、週1回3時間だけの開催ですが、その時間だけでも、そうしたつらさしんどさをもつ若者たちに寄り添うことができればいいなと考えています。

＜利用者の若者(男性)から＞

1週間の出来事をしゃべりに来ています。憂うつな月曜日が楽しくなりました。1か月に1回だと少ないし、祝日や年末年始も含めて毎週あるのがいい。コロナで3回なかった時は、仕方なく他のことで気分転換しました。ここでココアが飲めるのもうれしい。

< 歌ごえ >

月に1回、どなたでも参加できる楽しい歌の集いを持っています。地域の方々と気楽に好きな歌を歌って、良い交流の時を過ごしています。特に、一人暮らしの方、昼間お一人で過ごしておられる方々とも一緒に楽しい時を過ごせたらと願っています。本年は緊急事態宣言より休みとし、現在は様々な対策を実施した上で開催しています。

(時)毎月第4金曜日 午後2時半～4時 (参加費)無料

＜利用者の方々の声(いずれも高齢の女性)です＞

◆月1回、初めての人も昔からの人もそれぞれに、自分の好きな曲をリクエストし、皆で歌えることが楽しいです。コロナで自粛生活を強いられていますが、時には電話を使って歌の仲間とデュエットしています。「歌ごえ」は私にとって大切な場となっています。

◆毎月の「歌ごえ」を楽しみに来ています。今はマスクをしながらですが歌も楽しく、また終わった後の会話も大切にしています。私は一人暮らしですが、皆さんそれぞれ違った考え方、感じ方があってそれがすごくプラスになり、学びになっています。



< 聖書研究会 >

毎月第4水曜日の午後5時から開いています。日曜日の礼拝に参加が難しい方も含め、学びの時をもっています。率直な感想、いろいろな解釈、新たな発見……等、気づきと対話の場になっています。日曜日の礼拝後にも不定期に開いています。

< 夕食会 >

毎月第2水曜日の午後5時から開いています。「食」を通じた交わりの場です。将来的には、地域の一人暮らしの方々などの交わりの場へと発展していければと願っています。こちらも新型コロナ対策を行った上で開催しています。



< 墓前礼拝 >

当教会の墓地は、城陽霊園(京都府城陽市深谷)にあります。高齢者や車いすの方も車で墓地のすぐ側まで行けて、共に墓前礼拝を守ることができます。現在、毎年6月の花の日、11月の永眠者記念礼拝の2回、墓前礼拝を守っています。様々な事情で(経済的な理由等)お墓を建てるのが困難な方もおられることを考え、墓地に入れるのは「教会員に限る」という条件を設けず、役員会の了承のもと教会員以外の方も、共に納骨されています。

< クリスマス・キャンドルライトサービス >

例年のこの催し、昨年は12月22日夜に「いのちの輝き～見守られて～」をテーマに催しました。棚谷牧師によるクリスマスメッセージは、「淋しがりの桜の賛歌」と題した紙芝居。クリスマスの飾りは、フリースペース「おやすみ」の造形・創作の時間に制作していただきました。この他、教会員による歌、演奏、詩の朗読、地域コーラスグループ「歌ごえ」によるクリスマスメドレーなど、暖かいクリスマスの夜となりました。

さて、コロナ禍の今年は、密にならないような催しをどのように実施するか模索しながら準備を進めています。



昨年 2019年クリスマス

< 教会1階のバリアフリー化を進めます >

当教会の1階は、礼拝室と談話室からなり、その間には高低差があります。これをフラットにして全体をバリアフリー化し、キッチンも設置して、教会建物の機能性を高める予定をしています。これにより、従来の活動をさらに充実すると共に、例えば地域のひきこもりがちな高齢者や若者と食事を共にする場をもつなど、顔と顔がわかる、お互いに支え合える居場所・コミュニティづくりを進めたく思います。これには相当な経費がかかります。どうか皆様方のお支えをお願いします。

●教会のホームページをご覧ください！！

西小倉めぐみ教会のホームページが出来ています。まだまだ内容はこれからですが、これから充実させていく予定です。教会通信を掲載しています。是非一度ご覧ください。

アドレスはwww.n-megumi.comです。

また、ひきこもりがちな若者が安心してすごせる居場所 フリースペース「おやすみ」のホームページもあります。アドレスはoyasumi.infoです。こちらの方も併せてよろしくお願いします。

「西小倉めぐみ教会を支える会」へのご支援のお願い

主の御名を賛美いたします。

西小倉めぐみ教会は、1981年、多芸正之牧師により創立し、2005年から倉橋剛牧師が、2015年からは現在の棚谷直巳牧師が務めています。一貫して、社会の中で小さくされた人たち、貧しくされた人たち、障害をもつ人たち、とりわけ精神障害者の人たちの課題を共に負って生きること、平和を希求して歩むことを宣教の課題として歩んできました。

現棚谷牧師が伝道師であった1992年には精神障害者のいこいの場として「ほっとハウス」を創設。これは四半世紀を経て大きく育ち、2019年5月には近隣地に新築移転しました。倉橋牧師就任時には、不登校・ひきこもりがちな青少年の居場所「おやすみ」や、地域の方々と歌を通じて交流する「歌ごえ」を創設し、現在も取り組みを続けています。2014年8月には宗教法人化し、今後永く教会のはたらきを続ける基盤ができました。

同教会では、教会に集う人たちが自身が精神障害者であったり、その家族に精神障害者がいる人たちが多くを占めています。弱い立場にある人たちが多く集う教会ゆえに、教会員による精一杯の献金にもおのずと限界があります。そのため、牧師の謝儀に対し、京都教区宣教連帯の制度から援助を頂き、さらに全国の皆様から「西小倉めぐみ教会を支える会」に献金をいただき、併せて教会の支出の見直しを重ねてきました。これからも小さく弱い群だからこそ神様から与えられた使命を果たし続け、その社会的はたらきをより広く知っていただくための発信を続けたいと思います。

本年度は、より積極的に地域住民の方々とお互いに支え合える居場所・コミュニティづくりの拡充のため、教会1階のバリアフリー化工事を予定しています。そのためますます厳しい経済的事情にどうかご理解をいただき、「西小倉めぐみ教会を支える会」へのご支援をいただきたくお願い申し上げます。

2020年 12月

西小倉めぐみ教会を支える会 代表 山下茂雄
(かがわ子ども・子育て支援センター館長)



< 改めての自己紹介です >

◎李清美と棚谷直巳 … 30年の付き合いの末に夫婦となりました。李清美さんは強直性脊髄炎とアーノルドキアリの難病を持つ自立障害者です(著書に『わたしはマイノリティ あなたは?』現代書館)。多くの介護者にも支えられて、二人で生活しています。感謝です。

今までに御献金いただいた方のお名前(敬称略・順不同) 2019.12.1~2020.11.15

足立こずえ 安達太郎 市川三本松教会 今井牧夫(京北教会) 宇治教会すみれ会
大阪東十三教会 鴨東教会 大野教会 交野教会 川上信 北村高史(奈良教会)
君村千代子 草津教会 熊谷沙蘭(桂教会) 近藤英子(琴浦教会) 夙川教会 膳所教会
瀬部史子 草加教会 高石教会 高の原教会 竹内富久恵 谷本一志 谷本芳子
丹波新生教会 田園江田教会 同志社教会 土佐教会 難波幸矢 西千葉教会 野方町教会
早瀬和夫(宇治教会) 原宿教会 ひばりが丘教会 伏見教会 三友由美子 水口教会
宮本真希子 紫野教会 八幡ぶどうの木教会 洛西教会 世光教会
李清美 上島良彦 倉橋 剛・容子 小曾根一枝 柴垣孔明 杉本節子 田中 晁・千栄
橋本 博 門戸幸子 棚谷直巳 (147 件 計643,512円)

振り込み口座番号(ゆうちょ)…00970-2-79224 (加入者名 西小倉めぐみ教会を支える会)